

# 国立国会図書館



館長対談第9回  
 国際図書館連盟会長 クラウディア・ルクス氏  
 主張する図書館へ  
 電子書籍の流通・利用・保存  
 国立国会図書館の書庫 第1回 東京本館

2009.6  
 No. 579

# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
03(3506)3301(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。</small>	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。</small>		

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声・FAXサービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

### サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	<small>※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。</small>	
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

- 02 ニジンスキーのダンス・デッサン  
バレエ・リュスの舞台イラスト集  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 国立国会図書館 館長対談 第9回  
国際図書館連盟会長 クラウディア・ルクス氏  
主張する図書館へ
- 10 ナレッジ社会における図書館 図書館の将来像を語る
- 12 リサーチ・ナビ ここに、調べもののヒントがあります。
- 17 国立国会図書館の書庫 第1回 東京本館
- 20 電子書籍の流通・利用・保存  
図書館および図書館情報学に関する調査研究の報告会から
- 25 本の万華鏡ができるまで  
第1回 アメリカ大統領の歴史 — あらためて知る 220年 —
- 26 科学技術資料の探し方  
図書館で学ぶ 第2回

16 館内スコープ  
リサーチ・ナビの<彙>

- 32 本屋にない本
- 『天馬 シルクロードを翔ける夢の馬 特別展』
  - 『帝室技芸員と一九〇〇年パリ万国博覧会』

- 34 NDL NEWS
- 平成21年度補正予算による大規模デジタル化
  - 第17回アジア・オセアニア地域国立図書館長会議 (CDNLAO) および第14回東南アジア図書館人会議 (CONSAL)

35 お知らせ

- 帝国議会会議録が明治44年から検索できるようになりました
- 国際子ども図書館展示会  
出発進行! 「のりもの」本めぐりへ
- 国立国会図書館件名標目表2008年度版を公開
- 平成21年度 図書館員のための利用ガイダンス
- 国際子ども図書館 夏休み催物「科学あそび」  
じしゃくのふしぎ
- 第16回東京国際ブックフェアに参加します
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

## ニジンスキーのダンス・デッサン バレエ・

金井 ゆき



図1 『シェエラザード』の「金の奴隷」と「ゾベイダ」



図2 『饗宴』の「火の鳥」

20世紀初頭、西欧ではバレエは時代遅れの娯楽として半ば忘れ去られていた。そこへ華々しく登場したのがロシアのバレエ団、バレエ・リュス (Ballets Russes) である。19世紀後半に西欧でバレエが衰退した後も、はるか東のロシアでは帝室の庇護のもとバレエ文化が脈々と受け継がれ、誰もが知るクラシック・バレエ作品である「眠れる森の美女」や「白鳥の湖」を生み出していた。

バレエ・リュスは当時世界最高水準だったロシアバレエに図1、2に見られる異国情緒などのエッセンスを加え、鮮やかな色遣いの衣裳、舞台美術、音楽をも含めた総合芸術として、パリを中心とする西欧の観客たちに衝撃を与え、熱狂的に受け入れられた。およそ20年にわたる活動の中で、ピカソ、マティス、コクトー、ドビュッシー、シャネルなど、綺羅星のごとき芸術家たちがバレエ・リュスの舞台上演にかかわっている。

“*Designs on the dances of Vaslav Nijinsky*” はバレエ団初期の中心的ダンサー、ヴァーツラフ・ニジンスキーが出演した作品をテーマとする12点の作品を収めたイラスト集である。1913年にパリで限定出版されたフランス語版をもとに、400部の限定版として同年にロンドンで出版された。当館所蔵資料には“N° 375”というシリアルナンバーが見られる。

作者のジョルジュ・バルビエは“*Gazette du Bon Ton*”を始めとする高級モード誌に多数のファッション画を載せるなど、アール・デコを代表するフランス人イラストレーターとして知られているが、イラストのみならず映画、舞台の舞台美術や衣装デザインも手掛けるなど、幅広い分野で活躍した人物である。

バルビエのファッション画は華やかな色遣いが特徴的だが、このイラスト集では使用する色数を2、3色に抑え、

# リュスの舞台イラスト集



図3 「薔薇の精」

色調も控え目になっている。「色の洪水」といわれたバレエ・リュスの舞台を忠実に再現するのではなく、簡素な色彩と構図を用いているが、それがかえって見る者に実際の舞台を強く想起させる。図2,3では「空中に浮かびあがったまま降りてこない」とも言われたニジンスキーの跳躍や、空中を漂うかのような浮遊感が生き生きと描かれており、現代に伝わるどの舞台写真よりも、その伝説的な踊りを再現しているといえるかもしれない。

この資料はバレエ、シャンソンなどの研究者、評論家として知られた蘆原英了氏（1907-1981）の旧蔵資料である「蘆原英了コレクション」中の1冊である。同コレクションにはこのほかにもバレエ・リュス関連資料として、公演プログラム<請求記号 VA32-D2-21>、ルードヴィヒ・カイナーやナタリア・ゴンチャロワの版画集<請求記号 VA32-D2-12、VA36-15>など、多数の貴重な資料が含

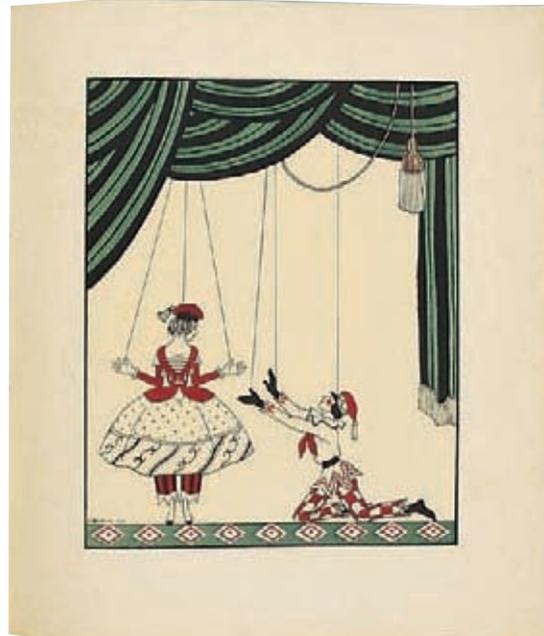


図4 「ペトリューシュカ」

まれている。

バレエ・リュスには人形の悲しい恋を描いた図4の「ペトリューシュカ」を始め、今なお世界中の人々に愛され、上演され続けている作品がいくつもある。このイラスト集もまた、出版から1世紀近い年月を感じさせない現代的なセンスを持った作品として、我々の目を楽しませてくれる。

George Barbier. *Designs on the dances of Vaslav Nijinsky*.  
London, C. W. Beaumont 1913

<請求記号 VA31-N3-2 >

※この資料は人文総合情報室でのご利用となります。

## 参考文献

- 『ディアギレフのバレエ・リュス』  
セゾン美術館, 一條彰子編 セゾン美術館 [1998]
- 『バルビエ・コレクション. 3』 ジョルジュ・バルビエ著  
鹿島茂編・解説 リブレポート 1994.12

第 9 回 主張する図書館へ

政治家に納得してもらうためには、まず図書館側が変わる必要があると思います。

今月号のお客様 国際図書館連盟会長 クラウディア・ルクス 氏



国際図書館連盟 (IFLA) の会長として、図書館の存在意義を理解してもらうことの重要性を訴え、積極的な活動を行っているクラウディア・ルクス氏に、世界の図書館が直面する課題についてお話を伺いました。

ルクス

私たちは、私たちの活動を目に見えるように説明していかねばなりません

**長尾** 本日はルクス会長にお越しいただきたいへん喜んでおります。今回の来日で10の図書館をご覧になったと聞いていますが、日本の図書館の印象はどうですか。

**ルクス** 国立国会図書館訪問は25年来の夢でしたので、実現してとてもうれしいです。国立国会図書館では、蔵書、関西館の建築と、特に電子化の事業にたいへん感銘を受けました。また、多くの公共図書館では、ビジネス支援サービスがとても進んでいると感じました。短い間に図書館の外側、つまり建築についても、内側、つまり図書館運営についても、多くのことが学べました。

**長尾** IFLA<sup>1</sup>の会長として、すべての国が地域の図書館を設置できるよう奨励する活動をされていますが、国によって設置状況には大きな違いがあると思います。デジタル化が進んでいる国もありますが、紙資料の蔵書も十分でない国もあります。世界の図書館の状況について教えてください。

**ルクス** 確かに状況はさまざまですが、過去10年間で見ると、新しい図書館が作られる動きが目立ったと思います。新しい図書館には色々な機能やさまざまな形態の資料があり、多くの人を訪れています。一方、政治家が図書館にまったく関心のない国もあります。また、図書館のまったくない地域を抱える国もあります。

このほか、多くの地域では、図書館員のトレーニングが十分でないという問題もあります。

**長尾** 現在、経済的に困難な状況の中で、我々は大々的なアドボカシー<sup>a</sup>活動をする必要があります。日本でも、公共図書館ではかなり予算が削減されているという状況があ

ります。自治体の長が図書館に理解を示す人であれば予算が確保されますが、一部の自治体では図書館の重要性について理解が十分得られていません。私たちは自分たちの活動を周知し、政治家を説得して見方を変えてもらうように努力する必要があります。こういったことについて、ドイツではどのような取組みをされていますか。

**ルクス** 政治家に納得してもらうためには、まず図書館側が変わる必要があると思います。図書館の仕事は目に見えないものが多いので、政治家は図書館員が知識を構築していることを知りません。図書館員であれば知識を構築するのが難しいということがわかりますが、図書館の外部に説明するのは非常に難しいことなのです。私たちは、私たちの活動を目に見えるように説明していかねばなりません。

**長尾** 図書館と美術館や文書館との連携についてどうお考えですか。

**ルクス** 美術館や文書館などの機関とは、今まで以上に緊密な連携が必要です。私は、この中では図書館が中心となるべきだと思っています。なぜなら、音楽、美術、演劇といった文化や文学に触れる最初の場所が図書館だからです。親がそういう背景知識を持たない家庭の子どもにとっては特にそうです。また、コンサートホールや美術館を訪れる人たちは、図書館のよい利用者にもなるでしょう。

**長尾** 大学図書館は、知識の源として大学の活動の中心に位置付けられるべきですが、日本では実際にはそうになっていない場合があ

a ここでは問題解決のために政府や機関に対して働きかけていくこと。

長尾 インターネットには現在たくさんの情報があり、保存価値の高いものも  
あります



Makoto Nagao

1936年三重県生まれ 博士(工学)  
専門は、自然言語処理、画像処理、パターン認識、電子図書館。  
京都大学工学部電子工学科卒業、京都大学総長(第23代)、独立行政法人情報通信研究機構理事長を経て、2007年4月から国立国会図書館長。

私の問題意識

ルクス氏はIFLA会長として国際的に積極的な活動をしてきた方である。世界には様々な発展段階の図書館があるが、IFLAとしてそれらをうまく成長発展させるために、どのような努力をしているか、これからの電子図書館の建設においてどのような課題があるか、またそういったことについての国際的な図書館協力のあり方などについて議論がしたかった。  
ドイツの図書館の状況、これからの方向についても知りたかった。

ります。図書館資源をどのように活用したらよいかわからないという状況もあります。こういった状況を改善する鍵はありますか。

**ルクス** これは世界全体に共通する問題だと思います。これまで大学のIT部門と図書館は競争しているようなところがありました。ドイツやその他の国々ではIT部門と図書館が連携し、お互いの活動を把握できるようにしています。

図書館員が出向いて学生や教授にデータベースや資料の使い方を教えるようにすると良いと思います。自宅や研究室から情報にリモートアクセスができるようにしておくことも重要です。そして、それらのサービスが図書館員の仕事によって実現していること、たとえばコンピュータで利用できる情報を図書館員が選択していることなどを、わかりやすく説明していかなければなりません。

学生や教授が来館して図書館を利用することを期待してはいけません。できる限り使いやすいリモートサービスを提供することが鍵になると思います。

**長尾** インターネットには現在たくさんの情報があり、保存価値の高いものもあります。国立国会図書館では、そういった情報を収集してアーカイブを作ろうとしていますが、収集には許諾が必要で、著作権が大きな問題になっています。インターネット情報の収集方法について、図書館は今後どうしたらよいと思いますか。

**ルクス** 著作権については理解していますが、将来に文化を伝えるためにも、個別に許諾を得るのではなく、一般的な規則に基づいて収集していけるようにする必要があります。

ウェブサイトを保存しなければその国の文

化の一部を失うことになります。政治家は、国の将来を考えるならばこれを忘れてはならないと思います。著作権は重要ですが、文化を保存することはさらに重要です。ドイツの法律では、ウェブアーカイビングのために著作権者の許諾を得る必要はありません。私たちはもうすでに多くのウェブサイトを失いました。今収集しなければ、将来、図書館は間違っていたと言われると思います。

**長尾** 収集したダークアーカイブ<sup>b</sup>の情報も一般に公開すべきとお考えですか。

**ルクス** 少なくとも収集はできるようにすべきだと思います。時を経れば公開可能になるかもしれません。

**長尾** ウェブアーカイビングについてIFLAでガイドラインを作成していただくというのはどうですか。IFLAでインターネット情報の収集についてのガイドラインを作れば、それを基に政治家を説得していける国もでてくるのではないのでしょうか。

**ルクス** 電子図書館についてのマニフェスト案を作成してユネスコに提示しました。私たちがマニフェストを作成したのは、電子図書館へ移行していくためにはまさに政治家のサポートが必要だと考えたからです。IFLAには電子図書館のガイドラインを作成するグループがありますが、もっと力が必要ですし、ほかのガイドラインを作成する必要もありますので、国立国会図書館からも参加していただければと思います。

**長尾** 電子図書館の活動は重要だと思いますが、対面でのコミュニケーションが行わ



Cludia Lux

国際図書館連盟 (IFLA) 会長、ベルリン中央図書館長 (Director General of the Foundation Central and Regional Library Berlin)

1986年ボーム大学で中国研究学博士号を取得。ベルリン国立図書館東アジア部、ベルリン市政府図書館長を経て、1997年ベルリン中央図書館長に就任。国際的な活動としては、IFLA執行委員会、運営理事会等を経て、2007年IFLA会長に就任。中国学司書として、また、図書館経営等の分野で幅広く活躍している。

**ルクス** ウェブサイトを保存しなければその国の文化の一部を失うことになります

b 一般の利用が制限されているまたは利用を前提としていないデータベースや資料などの情報資源。

れること、実際に図書館に来てレファレンスサービスを受けることが重要だという意見もあります。

**ルクス** 対面でのサービスは重要だと思います。でも、そのレファレンスサービスが家で受けられたらと思う人もいるでしょう。充実したりリモートサービスが提供できれば図書館を愛用する人も増えるし、そういった人たちが対面でのサービスを受けに来てくれるようになるかもしれません。

**長尾** 図書館員が対面でサービスを提供するためには、十分な教育を受けていなければなりません。利用者の相談にうまく対応できるように、図書館員をトレーニングする良い方法はありますか。

**ルクス** 何かを暗記するのではなく、手法や構造を理解するトレーニングをすれば、情報を得る方法が変わっても素早く対応できると思います。それから、レファレンスサービスは個人ではなくチームとして提供すべきです。チームのメンバーは異なる知識をもっているのを、それを活用して最善のものを提供することができます。

**長尾** 図書館どうしが国内だけでなく世界的に協力していくべきです。ヨーロッパには良い協力関係があると思います。私どもは、韓国国立中央図書館と中国国家図書館とは協力関係にあり、共通の問題について討議していますが、その他のアジア諸国とは十分な協力プログラムがまだありません。地域での協力関係についてどのようにお考えですか。

**ルクス** 経験から言いますと、組織内の個人によるところが大きいと思います。個人が協力関係を強く望んでいれば進歩します。

待ちの姿勢では進みません。たとえば、国立図書館長会議 (CDNL)<sup>2</sup>では、会議に参加する個人がそれぞれの国の状況を話し、エネルギーを注いで議論していますので、順調な進展が見られます。近年は電子図書館の議題がとりあげられ、欧州の電子図書館Europeana<sup>3</sup>や米国議会図書館とユネスコのワールドデジタルライブラリー (WDL)<sup>4</sup>などのプロジェクトについてさまざまな意見を聞くことができます。

**長尾** アジア・オセアニア地域でも図書館長会議 (CDNLAO)<sup>5</sup>を開催し、さまざまなことを議論しています。去年は当館が会議を主催し、四つの協力分野を打ち出しました。今年のベトナムでの会議では、これについてさらに議論が深まることでしょう。

WDLには当館も参加しました。日本の文化遺産を皆さんに楽しんでいただきたいと思っています。

現在、世界規模の電子図書館事業がいくつかありますがどのようにお考えですか。

**ルクス** 世界規模の電子図書館が複数あるのは、それぞれが異なる要素をもつからです。WDLは特に選ばれたコンテンツで構成され、ごく普通の人が理解できるようになっています。Europeanaはオンライン目録から始まり、電子化された資料をすべて一つのプラットフォームにのせようという取組みをしています。次の課題は一括検索ができるようにすることで、実現すれば大きな前進となるでしょう。

**長尾** ドイツ連邦政府では電子図書館プロジェクトを始めたそうですが、おもな目的を教えてください。

**ルクス** 文化遺産を守り、アクセスを提供

することです。プロジェクトを通してドイツの16州をまとめ、貴重な資料にアクセスできるようにしています。大量の文書館資料や図書館資料がすでにデジタル化され、現在は博物館資料の電子化を進めているところです。正直なところ、十分な予算がなく小規模なプロジェクトですが、8年以上にわたる構想が受け入れられてうれしく思っています。

**長尾** 本日はどうもありがとうございました。今後の私どもの活動に大きな刺激となることと思います。

対談を終えて

短い滞在期間中に10か所もの図書館を見てまわり、国立国会図書館で多くの聴衆に対して豊富な内容の講演をする精力的な行動力に感心した。日本は初めてのことだったが、どの図書館も非常によく整備されていて高いレベルにあるのを見て感銘を受けたとおっしゃっていた。図書館は積極的に利用者に関わりかけたり、社会に出てゆくことが大切であるといったお話など、対談も充実した楽しいものだった。

(長尾)

**用語解説**

**1. IFLA (International Federation of Library Associations and Institutions : 国際図書館連盟)**  
約150か国の1,600以上の会員を有する世界的な図書館団体。国立国会図書館は1966年に準会員、1976年に正会員となって以来、年次総会やその他の会議への参加などを通じて同連盟の活動に協力している。

**2. CDNL (Conference of Directors of National Libraries : 国立図書館長会議)**  
世界の国立図書館の館長によって構成され、通常、IFLAの年次総会にあわせて会議が開催される。

**3. Europeana**  
(<http://www.europeana.eu/>)  
2008年11月公開。2005年に欧州委員会によって開始されたプロジェクト。国立図書館、公文書館、博物館等1,000以上の文化機関が参加し、2009年5月末現在、テキスト、画像、動画、音声といった欧州の文化遺産約400万点の検索・閲覧が可能。

**4. World Digital Library**  
(<http://www.wdl.org/>)  
2009年4月公開。米国議会図書館(LC)と国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が共同で推進しているプロジェクト。LC、ユネスコのほかアレクサンドリア図書館(エジプト)等世界の34機関が手稿、地図、貴重書、写真、動画等のデジタルコンテンツを提供しており、英語のほかアラビア語、中国語等計7か国語で利用可能。

**5. CDNLAO (Conference of Directors of National Libraries in Asia and Oceania: アジア・オセアニア地域国立図書館長会議)**  
CDNLの下部組織。アジア・オセアニア地域の図書館の情報共有、相互協力を目指す。1982年の第2回会合と2008年の第16回会合を当館で開催した。2009年の会議についてはNDL NEWS(本誌34ページ)参照。

(この対談は2009年3月10日に国立国会図書館で行われました。)

## ナレッジ社会における図書館 図書館

クラウディア・ルクス

この講演は、3月10日、国際図書館連盟 (IFLA) 会長クラウディア・ルクス氏をお招きし、東京本館で行われました。

### ナレッジ社会における図書館

古来、図書館は学問の発展に貢献してきました。20世紀には、情報や知識の流通量が爆発的に増大し、図書館は学問においてますます重要な役割を果たすようになりました。そして21世紀、ナレッジ社会 (knowledge society) と呼ばれる、無形資本、人的資本、社会的資本への投資をもっとも貴重な資産とし、知識と創造性を重要視する社会が到来しました。

ナレッジ社会において、図書館のサービスはどうあるべきなのでしょう。多くの図書館で、利用者をインターネット上の適切な情報に導くリンク集を作成し、著作権の切れた資料をデジタル化してインターネットで公開しています。オンライン目録やメタデータを活用したデータの共有、交換も行われています。遠隔サービス、SMS (ショートメッセージサービス) や RSS による情報提供、世界中の図書館との協力による24時間体制のレファレンスサービスなど、図書館は、ナレッジ社会における新しいサービスをすでに始めているのです。現在、コンピュータのネットワーク上に学術の基盤が構築されつつあります。これは、図書館にとっては情報を共有し、利用者がアクセスできる情報の範囲を広げるチャンスです。図書館は

時代遅れな存在にならないように、Web2.0の技術による活動 (ソーシャルネットワーキングサービスの活用など) をもっと進めていく必要がありますし、多くの図書館がそのような方向に進んでいます。

### 図書館の役割

では、将来における図書館の役割とは何なのでしょう。これまでと同様に、図書館は、情報や知識へのアクセスを手助けするという重要な役割を担っています。また、情報リテラシーの教育者としての役割がますます重要になっています。さらに、図書館はデジタル文化遺産の管理者となる必要があります。これには、ほかの図書館や類縁機関との協力が不可欠です。

そのためには、まず、旧来の役割を基礎として新しい役割を受け入れていくことです。そして、特に情報技術分野やアウトリーチサービス\*における人材育成が不可欠です。図書館は、情報技術の進展による利用者の行動変化や、新しい種類の資料に対応しなくてはなりません。また、多言語に対応するために、司書が言語能力を高めることも重要です。

\*図書館サービスが届きにくい人々に対し、図書館が積極的にサービスを広げること

### ナレッジ社会の課題

ナレッジ社会の経済的、法的側面にも図書館はかわりをもっています。金融危機は図書館経営

# の将来像を語る

にとって大きな脅威ですが、その中でも図書館は重要な役割を果たすことができます。また出版界も多様化しています。グーグルによるデジタル化事業を図書館にとっての脅威と感じる人もいますが、利用者への情報提供の範囲が広がるなど、そこにはチャンスがあると私は思います。このようなサービスには著作権の問題が関係しており、すぐに解決できる問題ではありません。IFLAは経済的、法的にバランスを取っていきたいと考えています。図書館の活動は本来営利的なものにはなりえないと思いますので、自由市場の一部となることは難しい問題です。

一方、ナレッジ社会における図書館サービスは、詳細検索、検索の拡充、オープンアクセス等という形で広がってきましたが、現実にはまだ、情報をもてる者ともたざる者の格差（デジタルデバイド）が存在します。

## マーケティングとアドボカシーの重要性

図書館は文化や教育だけでなく、都市計画、家族政策、医療、ビジネス等の分野でも重要な役割を果たしています。我々は政府や自治体の計画を分析し、図書館が参画できるものを探す必要があります。また、図書館には、サービスを維持するためにアドボカシー（問題解決のための働きかけ）能力や予算・支援を獲得する能力が必要です。我々は仕事に誇りをもつだけでなく、図書館の重要性を語っていかねばなりません。図書館は、

資料の提供を通して、人々に力を与え、発展を支え、ナレッジ社会において重要な役割を果たしている機関なのです。

我々が力を合わせなければ、情報社会の中での図書館の役割を大きくしていくことはできません。また、我々のサービス対象である利用者の立場から発言することも重要です。IFLAは、世界中の図書館と図書館協会を支援する非政府、非営利の独立組織です。図書館サービスの質を高めるため、図書館間の協力促進、国際標準やガイドラインの作成、図書館のためのアドボカシー活動に取り組んでいます。IFLAのアドボカシー活動は、図書館が電子情報基盤の一部となってデジタルデバイドを解消し、社会の発展を支え、コンテンツを提供し、文化、教育に資するためのものです。

図書館にはマーケティングとともに、自らの活動を具体的に発信していく必要があります。情報社会で新しい役割を果たすためには、我々も変わらなければなりません。我々が当たり前知っていることでも、違う視点から伝えていく必要があるのです。利用者を待つのではなく、こちらから出て行って、図書館のサポーターを社会の中で作っていかねばなりません。私のテーマである“Libraries on the agenda! (図書館を議題に)”のとおり、図書館の価値、社会の発展における図書館の重要性を伝えていくことが重要になってきているのです。

(クラウディア・ルクス 国際図書館連盟会長)

(訳・編 総務部支部図書館・協力課)

## リサーチ・ナビ ここに、調べものの

国立国会図書館は、5月11日に、求める情報に効率よくたどり着くための新しいウェブサービス「リサーチ・ナビ」を開始しました。

### リサーチ・ナビとは？

国立国会図書館では、レファレンス・サービスとして、電話やカウンター対応のほか、全国の図書館からの問い合わせに応じて文献紹介や簡易な事実調査、類縁機関の紹介などを行っており、その件数は年間60万件以上に及びます。このレファレンス・サービスの蓄積をもとに、基本的な調べ方や参考資料を紹介する「調べ方案内」、特定のテーマに関する資料の書誌情報や参考情報を組み合わせた主題情報データベースなどさまざまなコンテンツを作成しています。さらに、国内の図書館のレファレンス事例を蓄積したレファレンス協同データベース、当館の膨大な蔵書の書誌情報を検索できるNDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）、デジタルアーカイブを検索できるPORTA（国立国会図書館デジタルアーカイブポータル）など、数多くの情報とデータベースをインターネット上で提供しています。

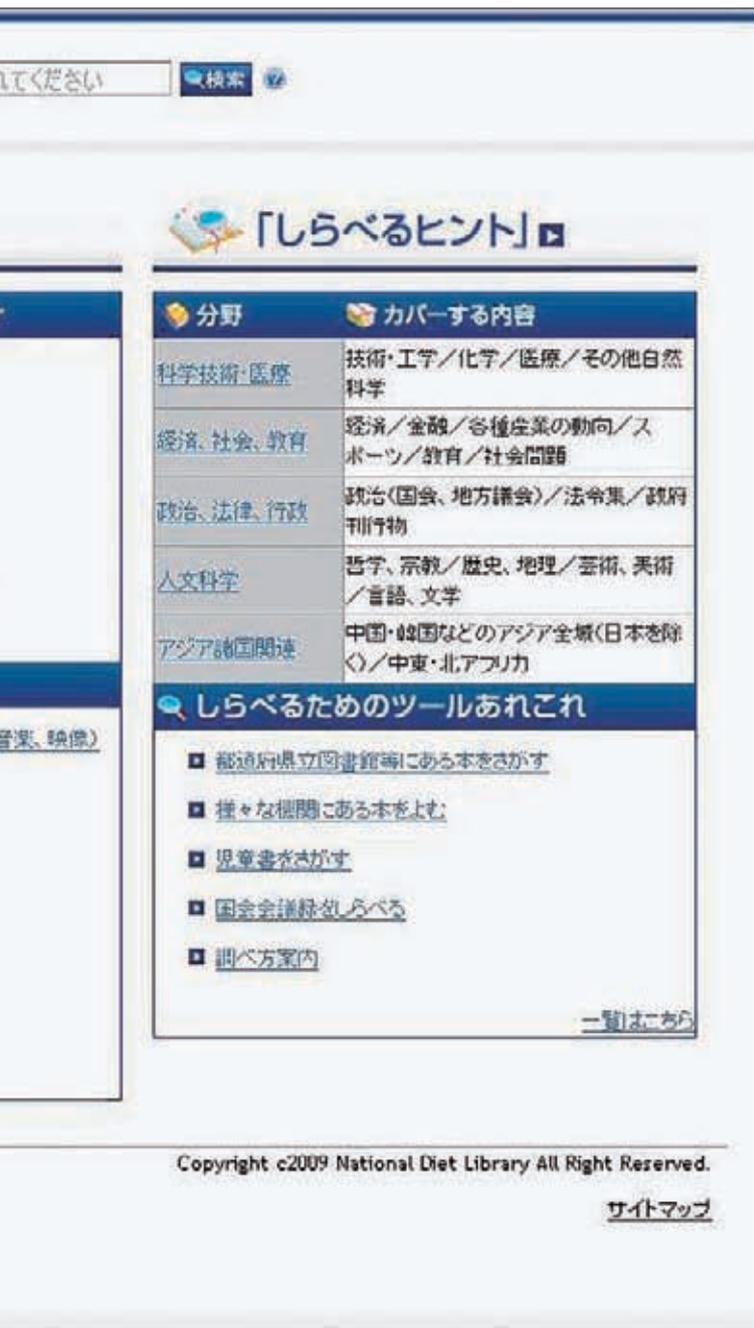
「リサーチ・ナビ」は、こうした当館の豊富なコンテンツやデータベースを、キーワードやテーマから多角的・階層的に探すことのできるサービスです。思いついたキーワードで検索するほか、案内メニューを階層的にたどって調べ方や関連文献を探すことができます。調べものの目的に応じて使い分けてください。

The screenshot shows the 'リサーチ・ナビ' (Research Navi) website. At the top, there is a search bar with the placeholder text '思いついたキーワードを入力' (Enter a keyword you think of). Below the search bar, there are navigation links: 'リサーチ・ナビについて' (About Research Navi), 'リサーチ・ナビの使い方' (How to use Research Navi), '国立国会図書館に行く' (Go to the National Diet Library), and '図書館にいく' (Go to the library). There are also logos for '本の万華鏡' (Book Kaleidoscope), '国立国会図書館 National Diet Library', 'NDL-OPAC 国立国会図書館 蔵書検索・申込システム' (NDL-OPAC National Diet Library Collection Search and Request System), 'レファレンス協同データベース' (Reference Cooperative Database), and 'PORTA'.

On the right side, there is a section titled 'リサーチ・ナビへようこそ' (Welcome to Research Navi) with a large button that says '「本をさがす」' (Find books). Below this, there are two main sections: '国立国会図書館にあるかさがす' (Search for books in the National Diet Library) and '本の種類からさがす' (Search by book type). The '国立国会図書館にあるかさがす' section includes links for: '国立国会図書館にある本をさがす' (Search for books in the National Diet Library), 'アジア諸言語の本をさがす' (Search for books in Asian languages), '明治・大正時代の本を読む' (Read books from the Meiji and Taisho eras), '江戸時代以前の本、絵巻、濃縮を見る' (View books from the Edo period and earlier, scrolls, and microfilm), '児童書(昭和30年代以前のもの)を読む' (Read children's books (from before the 1950s)), and '他の図書館にある本も含めてさがす' (Search for books in other libraries as well). The '本の種類からさがす' section includes links for: '図書' (Books), '雑誌' (Magazines), '新聞' (Newspapers), '規格・博士論文・テクニカルレポート' (Standards, Doctoral Theses, Technical Reports), '江戸時代以前の本、絵巻、濃縮' (Books from the Edo period and earlier, scrolls, and microfilm), '児童書' (Children's books), 'AV資料' (AV materials), '統計' (Statistics), and '地図' (Maps).

At the bottom, there is a section titled 'お問い合わせ先' (Contact Information) with the following details: '国立国会図書館主題情報部 参考企画課' (National Diet Library Subject Information Department Reference Planning Section), '東京都千代田区永田町1-10-1' (1-10-1, Nagatsuta-cho, Chiyoda-ku, Tokyo), and '電話：(03)3581-2331' (Phone: (03)3581-2331).

# ヒントがあります。



リサーチ・ナビ <http://rnavi.ndl.go.jp/>  
国立国会図書館ホームページ調べ方案内

## おもなコンテンツ (★は新規提供)

### ■調べ方案内

調べものをする際に役立つノウハウや参考資料をテーマや特色ある資料群ごとに紹介したもの(「テーマ別調べ方案内」)をリニューアル。

### ■参考図書紹介

参考図書(辞書、目録など)の書誌情報と一部の資料についてその概要を紹介したデータベース。

### ■目次データベース★

レファレンスに役立つ参考図書・論文集・資料集・楽譜などの目次のデータベース。

### ■科学技術論文誌・会議録データベース

国内で活動する諸団体が発行する科学技術関係の学術論文誌等のデータベース(「日本科学技術関係逐次刊行物総覧」をリニューアル)。

### ■企業・団体リスト情報

経済、社会、教育分野の企業・団体等のリスト(会社名鑑、学校一覧など)を含む資料を検索できるデータベース。

### ■近現代日本政治関係人物文献目録

明治期以降に政治分野で活躍した日本人に関する文献を人物名から検索できる目録データベース。

### ■日本人名情報索引(人文分野)データベース★

日本人の人名情報(略歴等)を収録した人名辞典等について、タイトル等の書誌情報や収録内容のキーワードで検索できる索引データベース。

### ■近代日本軍事関係文献目録★

戊申戦争から第2次世界大戦までの、日本がかかわった戦争に関する文献の目録データベース。

### ■ミニ電子展示 本の万華鏡

毎回テーマを決めて国立国会図書館の所蔵資料を紹介するコーナー(「常設展示」をリニューアル)。

## リサーチ・ナビの使い方

### (1) キーワードで検索する

レファレンス協同データベース、国立国会図書館の和図書・和雑誌新聞蔵書目録、雑誌記事索引、近代デジタルライブラリー、リサーチ・ナビ上で提供している主題情報データベース群を一度に検索できます。

検索結果は、次の項目ごとに表示されます。

#### a 調べ方

「調べ方案内」およびレファレンス協同データベースの検索結果を表示します。

#### b 本・サイト

和図書・和雑誌新聞蔵書目録、雑誌記事索引、近代デジタルライブラリーと主題情報データベース群の検索結果を表示します<sup>1</sup>。

#### c キーワード

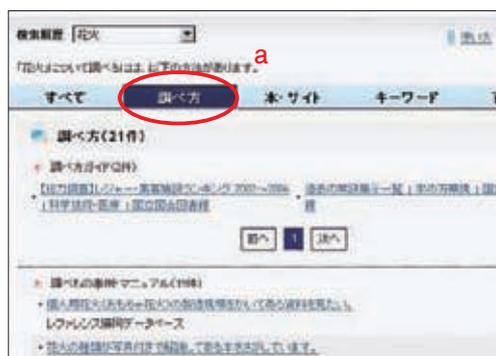
国立国会図書館件名標目表 (NDLSH) や日本十進分類法 (NDC) 等を応用し、調べたいテーマについてデータベースを検索する手がかりとなる関連語を表示します。一覧表示のほか、より広げた関連語を、テーマグラフ (語の関連性を図示) やタグクラウド (関連語の羅列。文字が大きいほど検索結果が多い) の形で表示します。これらを活用することで、最初に思いついたキーワードとは違う視点から調べることができます。

#### d 百科事典

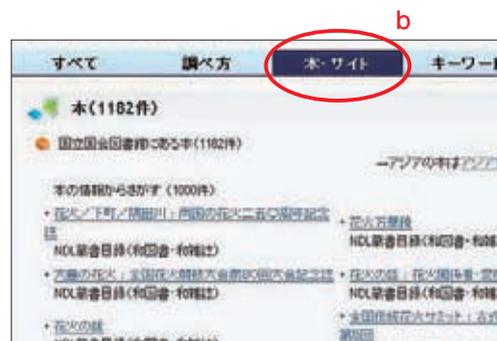
参考情報<sup>2</sup>として、ウェブ上の百科事典の検索結果を表示します。

- 1 当館蔵書目録と雑誌記事索引は PORTA 経由で検索しているため、NDL-OPAC の検索結果と異なる場合があります。
- 2 当館では、個別の記載内容について判断していません。

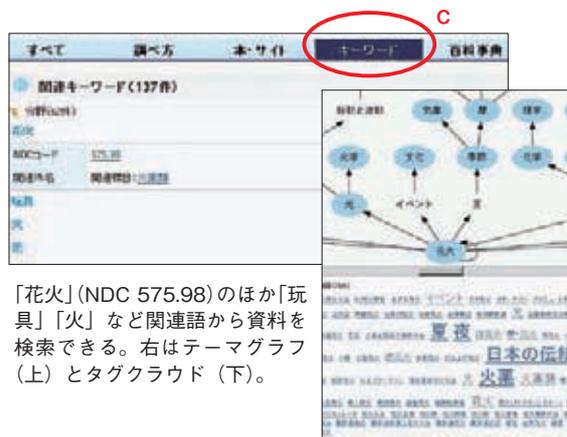
### ● 「花火」について調べてみましょう



花火に関する参考情報や、レファレンス協同データベースから花火に関するレファレンスの事例が表示される。



花火大会の記念誌や専門雑誌など多くの資料を当館が所蔵していることがわかる。



「花火」(NDC 575.98)のほか「玩具」「火」など関連語から資料を検索できる。右はテーマグラフ(上)とタグクラウド(下)。

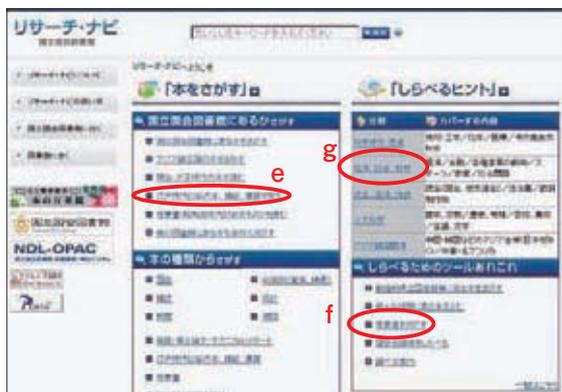
## (2) 案内メニューを階層的にたどって探す

調べたいテーマがはっきりしており、調べる対象を絞り込んでいくときに便利です。

リサーチ・ナビのトップページには、「本をさがす」「しらべるヒント」という二つの大きなメニュー群があります。「本をさがす」では、資料の種類ごとに適切なデータベースが表示されます。一方、「しらべるヒント」では、分野ごとに

専門情報や主題情報データベースの案内が表示されます。都道府県立図書館等にある本を探したり、「調べ方案内」を総覧することもできます。

リサーチ・ナビは、当館の豊富な蔵書と培った知識を背景にコンテンツを充実し、提供の仕組みを改善しながら成長していきます。ぜひご利用ください。  
(主題情報部参考企画課)



## ● 「花火」について調べてみましょう



**e** 江戸時代の花火の絵を探す場合、「国立国会図書館にあるかさがす」の「江戸時代以前の本、錦絵、漢籍を見る」から「貴重書画像データベース」へ。ここから豊国や広重の描いた花火の錦絵が見られる。

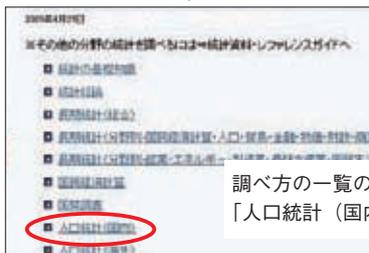


**f** 花火の絵本を探す場合、「しらべるためのツールあれこれ」の「児童書をさがす」から「児童書総合目録」へ。「あらすじ検索」を使えば、タイトルに「花火」がついていない絵本も含めて探すことができる。

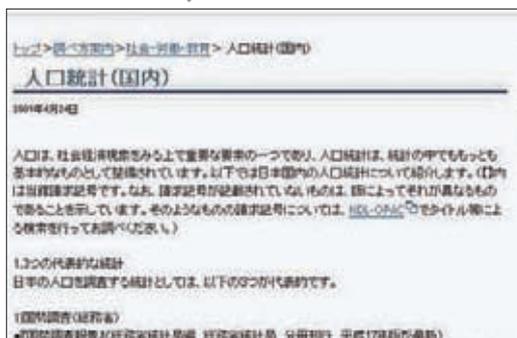
## ● 「国内の人口の変遷」について調べてみましょう



**g** 「しらべるヒント」から「経済、社会、教育」分野を選ぶ。「統計の調べ方」という項目がある。



調べ方の一覧の中に、「人口統計 (国内)」がある。



「人口統計 (国内)」では、国勢調査などの代表的な資料のほか、人口の推移などのテーマごとに、関連資料とインターネット上の情報源を解説とともに紹介している。

## リサーチ・ナビの〈<sup>もと</sup>素〉

「世界の患者数の推移がわかる資料はありますか?」「カップラーメン(即席めん)の市場動向を調べているのですが…」

国立国会図書館には、様々な問い合わせが寄せられています。そういった利用者の皆さんの「?」を解決するために、私たちは様々な情報を資料に基づいて提供しています。これを図書館では「レファレンス・サービス」と呼んでいます。

レファレンス・サービスに従事する職員は、日々の業務で調べ方のコツ、資料の探し方、データベースの使い方など多くのノウハウを身に付けていきます。うまく解決できなかった事例も将来のための検討材料となります。こうしたノウハウや事例は、プライバシーに配慮し、十分に一般化した上で記録に残し、「知識」として代々引き継いでいます。

以前は、事例や業務メモを「インフォメーションカード」という紙のカードに記録していました。2004年からは職員専用のイントラネットに情報を蓄積し、共有しています。事例を見たほかの職員からアドバイスがもらえることもあり、また、職員どうしでスキルを高めるための材料になります。今や2万件近くにまでなった「知識」の集積は、当館のレファレンス・サービスに欠かせない宝の山となり、今も成長を続けています。



資料とネットワークを駆使して問い合わせに応える

さて、こうして蓄積された様々な事例を見てみると、よく尋ねられることが浮かび上がってきます。それを洗い出して様々な情報を追加・補足し、調べるためのノウハウとして精製したものが、「調べ案内」です。例えば、最初にご紹介した問い合わせからは、「世界各国の疾病(病気)別患者数」「食品産業について調べるには」というような「調べ案内」が生まれました。

5月に始まったリサーチ・ナビ(<http://rnavi.ndl.go.jp/> 本誌12~15ページ参照)は、「調べ案内」のほか、特定のテーマに関するデータベースなど、何かを調べようとする方の道しるべとなる情報を提供するものです。リサーチ・ナビの裏側には、こういった知識の積み重ねと、それを取り巻く職員のネットワークがあるということを知っていただければ幸いです。

(参考企画課 リサーチ・ナビ事務局)



新館書庫（光庭）

## 国立国会図書館の書庫

国立国会図書館の蔵書は、約3,600万点。日本国内では最大の規模です。1年間に、図書は約20万冊、雑誌・新聞は約60万点増えていきます。そのほか、地図、音楽CD、博士論文など、さまざまな内容と形態の資料を所蔵しています。これらの資料は、国会の図書館として、また唯一の国立図書館として行うさまざまなサービスのため、大切に保存されています。

一般的な公共図書館とは異なり、資料は書庫に収められていて、請求に応じて担当者が出納します。利用者の方は書庫に立ち入ることができません。大規模な蔵書の保存と利用を両立させるために、「閉架式」としているのです。

このシリーズでは、通常はご覧になれない書庫の中をご案内しながら、その構造や施設、蔵書の保存と利用のためのさまざまな工夫を紹介します。

# 第1回 東京本館

## ■本館書庫

昭和36(1961)年に第1期工事が完了、昭和43(1968)年に全面完成した本館の書庫は、一辺45mの正方形で、建物の中央に配置され(中央書庫式)、その周りを事務棟が取り囲んでいます(図2)。

設計当時、書庫の配置について次の4種類が検討されました。①中央書庫式 ②下部書庫式 ③周辺書庫式 ④後部書庫式。館内の議論や専門家による協議会の結果、当館の機能にもっとも近い米国議会図書館が中央書庫式であり、どの事務室からも書庫が近いなどの利点が評価され、中央書庫式が採用されました。

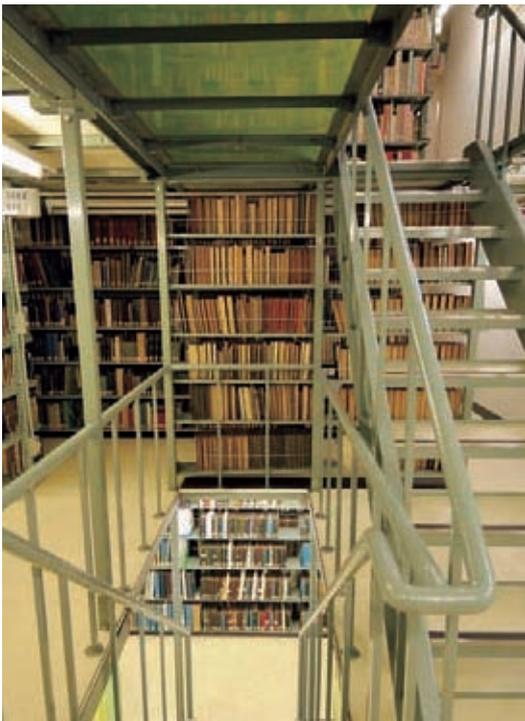


写真1 書庫内の階段から上下の層を望む

## ■本館積層書庫

本館書庫は、コンクリートの床で構成された1階分を、鉄骨の床で3層(一部2層)に分割した合計17層の積層書庫の構造になっています(写真1)。鉄骨の床を支える角型の鋼管が約1.4m×0.9m区画で入っており、書架の支柱も兼用しています。この支柱には30mmごとに穴があいており、書架棚板の高さを自由に設置できるようになっています。

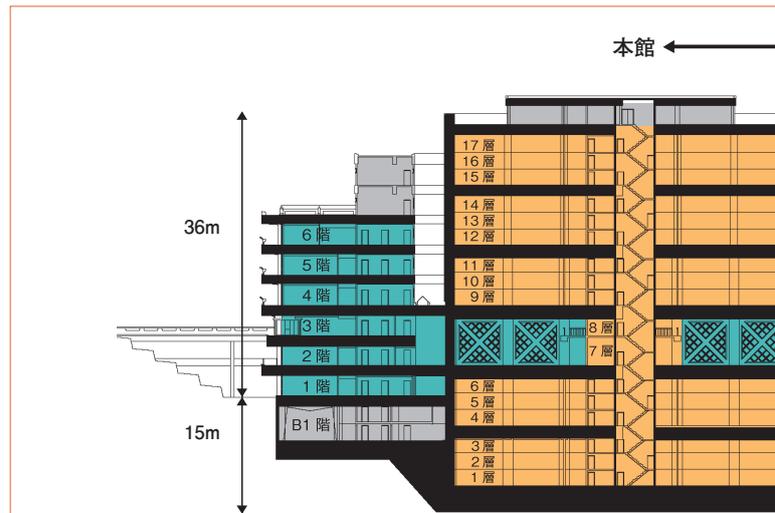


図1 東京本館 断面図

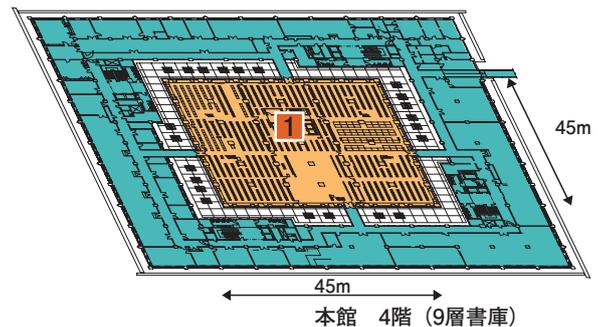


図2 東京本館 平面図

## 1 書籍搬送設備

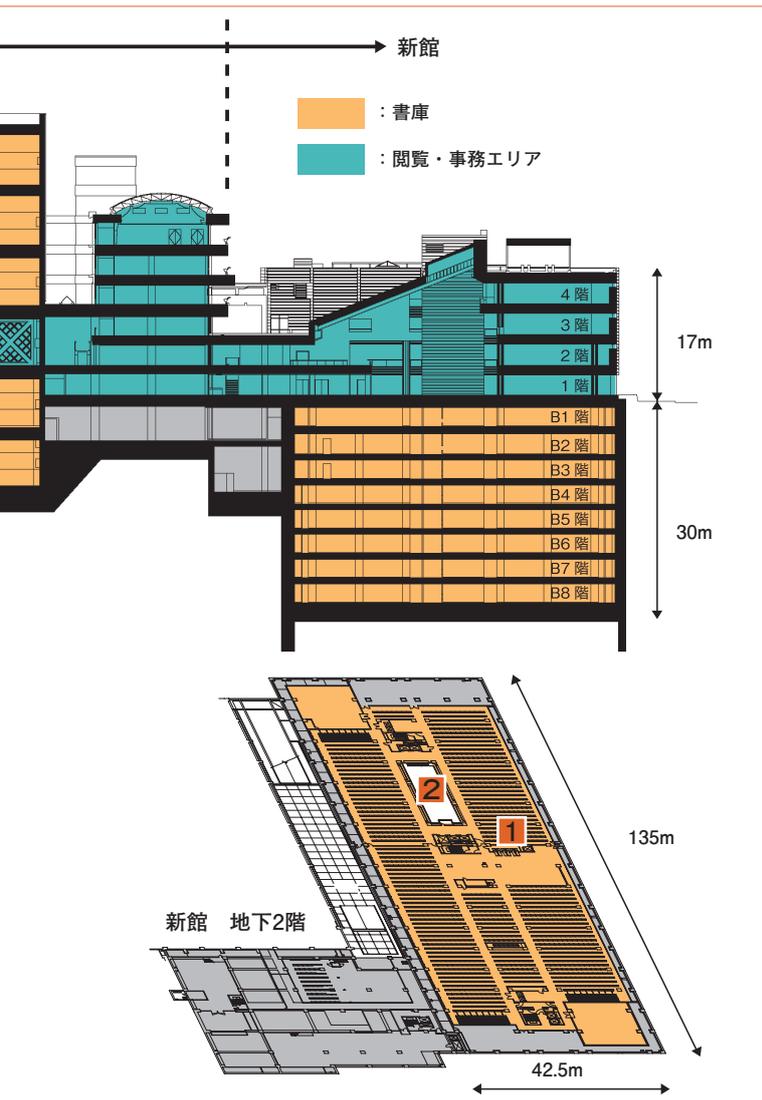
効率よく資料を出納するため書籍搬送設備が設置されています。書庫の各階には搬送設備を操作するステーション(写真2)があり、トレイに乗った資料(写真3)が、書庫とカウンターの間を行き来します(写真4)。トレイにはID番号が付与されていて、検知器により現在位置が確認できます(写真5)。



写真5



写真2 ステーションに並ぶトレイと操作盤(新館)



## ■新館書庫

昭和61(1986)年に完成した新館では、書庫がすべて地下に配置され、地下8階で基礎の深さは30mに及んでいます(図1)。東京本館は国会議事堂の隣にあり、景観保持のため建物の高さをできるだけ抑制するの必要がありました。また、地下30mあたりに東京礫層という固い地盤があることもこの深さにした理由の一つです。

書庫を地下に配置したことで、年間を通じて外気温の影響が少なく、効率のよい省エネルギーの建築物となっています。また、地震による揺れが少なく保存環境にも適した環境といえます。書庫の大敵「浸水」を防ぐため、地下外壁の外と1階の床にも防水が施され、地下と地上の両方からの浸水を防いでいます。

## ■光庭

閉鎖的になりやすい地下ですが、地下8階まで自然光が届く光庭が設けられ、書庫内で働く人々の心理的負担を軽減するとともに、停電時の備えにもなっています(17ページ写真、写真6)。

### 新館の地下工事

新館建設当時は、地下の深さが30mにも及ぶ工事は実例が少なく、非常に先端的な工事でした。

地下工事では、通常は土を掘った後に下から上に向かって建物を建設しますが、新館は地下が深く下部に強大な圧力がかかるため、最下部まで一気に掘り下げることができませんでした。そこで、まず地中に厚い壁(地中連続壁)を建設して、巨大な鉄筋コンクリートの囲いを地下に造りました。次に1階と地下1階の床を造り(逆打ち工法)、この2段の床で上部の壁を固定してから下部を掘削するという工法を採用しました。

地上に建物が顔を見せるまで約3年を要し、当時はなかなか地上に上がってこない不思議な建物として噂になったそうです。排出した土の量は、プール280杯分にも及びます。

\*プール1杯=50m×12m×1.25mとして計算

	本館	新館
延床面積	74,911m <sup>2</sup>	72,942m <sup>2</sup>
書庫面積	32,185m <sup>2</sup>	45,861m <sup>2</sup>
完成	昭和36年(第1期) 昭和43年(第2期)	昭和61年

(総務部管理課)



写真6 新館書庫 左手はガラスを隔てて光庭



写真3

写真4

## 電子書籍の流通・利用・保存

### 図書館および図書館情報学に関する調査研究の報告会から

国立国会図書館では毎年、図書館協力事業の一環として、図書館および図書館情報学に関する調査研究を実施しています。平成 20 年度には、近年急速に市場が拡大し、社会的な注目も高まっている「電子書籍」を取り上げ、その流通・利用・保存の実態を把握するために、有識者 4 名による研究会を組織して調査を行いました。ここでは、3 月 9 日に東京本館（関西館はテレビ中継）で開催した報告会をもとに、電子書籍の流通・利用・保存の現状と課題について紹介します。



#### 電子書籍への注目の高まり

電子書籍の市場規模は、平成 14 年の調査開始時から毎年、前年比のほぼ 2 倍程度で拡大を続けています\*。このような市場の拡大を背景に、平成 19 年、日本の図書館界にも電子書籍に関する大きなニュースが駆け巡りました。著作権の保護期間が満了していない日本語の電子書籍を、図書館が有償で契約してインターネットで利用者に提供するサービスが、いくつかの大学図書館や公共図書館で始まったのです。また、携帯電話用の

ネットワークサービスで提供される小説、いわゆる「ケータイ小説」が若年層を中心に広く普及し、これを書籍化したものが、ベストセラーの文芸部門の上位を独占するというできごともありました。

このような動向をふまえ、国立国会図書館では日本国内における電子書籍の流通・利用・保存の現況について、図書館とのかかわりも視野に入れながら、文献調査、質問紙調査、インタビュー調査などの手法で調査を行いました。

\*インプレス R & D インターネットメディア総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書」2003-

## そもそも電子書籍とは？

「電子書籍」とは、そもそも何を指すものなのでしょうか？ 湯浅俊彦氏（夙川学院短期大学准教授）からは、「電子書籍」は定義しづらいもの、その実態を捉えにくいものであるという説明がありました。紙媒体で刊行された書籍をスキャニングするなどして作成され、パソコンや携帯電話向けに提供されているもののほか、専用の機器上で提供されている電子辞書、「ケータイ小説」のように最初から電子媒体で発表された「ポーン・デ



湯浅俊彦氏  
夙川学院短期大学准教授。  
調査研究では、主に電子  
書籍概論、インタビュー調  
査のまとめ、全体のまとめ  
を担当。

あり、同じタイトルの書籍が複数のサイトで販売されていることもあります。電子書籍に関する既存の統計は、有償で販売されている電子書籍についていくつかの販売サイトから得た情報に基づいて作成されており、そこに収録されていない電子書籍群も多数存在していることに留意する必要が

デジタル」のもの、図書館が所蔵する貴重書などをデジタル化したものなども、電子書籍と呼ばれることがあります。また、パソコンや携帯電話向けに販売されているものに限っても、販売しているウェブサイトを網羅的に把握するのは大変困難で

ある、と湯浅氏は指摘しました。

今回の調査では、現在の産業的実態や図書館とのかかわりを考慮して (1)パソコンや携帯電話向けに販売されている、紙媒体をデジタル化して作成された電子書籍、(2)人気の作品が紙媒体の書籍として印刷・刊行されることもある、ポーン・デジタルのケータイ小説等の電子書籍を主に取り扱いました。ただし、「青空文庫」や「Google ブック検索」といった電子書籍サービスも、電子書籍を取り巻く環境の変化を分析する中で、必要に応じて取り上げています。

## 電子書籍にかかわる人々

電子書籍が作成され、読まれるようになるまでの流通プロセスには、紙の書籍の場合とは異なる人々（事業者）がかかわっています。紙媒体をデジタル化して販売する電子書籍の場合、元の紙媒体の書籍を制作した出版社、それをデジタル化して提供するコンテンツプロバイダー、コンテンツプロバイダーのウェブサイト携帯電話の公式サイトとして登録し販売の管理を行う携帯電話通信事業者（キャリア）などが、関係する事業者として挙げられます。この調査では、それぞれの電子書籍へのかかわり方について、主に文献により歴史的経緯をまとめるとともに、質問紙調査やインタビュー調査により、現状や課題が各事業者

よってどのように認識されているかを探りました。

電子書籍の歴史的経緯については、湯浅氏がまとめています。それによると、日本における電子媒体での書籍出版の始まりは昭和60年、三修社によるCD-ROM版『最新科学技術用語辞典』の発売だとされています。以後、辞書・事典などを中心としたCD-ROMでの出版が各出版社によって行われるようになり、平成12年前後にはより大容量のDVD-ROMでの出版も始まります。こうしたパッケージでの電子書籍販売と平行して、平成12年には大手出版社8社による、インターネット経由でのパソコン、携帯情報端末(PDA)向けの電子書籍ダウンロード販売が開始されました。さらに、平成16年には松下電器、ソニーの両社が読書専用端末を相次いで発表し、それらの端末向けに書籍コンテンツの提供を始める出版社も少なからず出てきました。ところがこれらの読書専用端末は売れ行き不振から生産中止となり、代わって平成19年頃から、携帯電話や携帯型音楽プレイヤー、携帯型ゲーム機などで利用できる電子書籍の提供が増えてきました。

このような変化に応じて、各種の機器で利用できるようデジタル化するコンテンツプロバイダーや、携帯電話向け電子書籍の販売を管理する携帯電話キャリアの役割が大きくなってきました。『電子書籍ビジネス調査報告書、2008』(20ページ脚

注参照)によれば、携帯電話向け電子書籍の売上は、パソコン向け電子書籍を含む全体の売上げの約80%を占めており、携帯電話キャリアが公式サイトとして登録している電子書籍販売サイト



萩野正昭氏  
株式会社ボージャー代表取締役。調査研究では、主に電子書籍の流通と視覚障害者の「読書」を担当。

は、平成20年12月時点で600以上にも上っています。

萩野正昭氏(株式会社ボージャー代表取締役)は、携帯電話向け、パソコン向け、モバイル情報端末(携帯情報端末機能を備えた携帯電話「スマートフォン」)や、通

信機能を有する携帯型音楽プレイヤー・携帯型ゲーム機など)向けの3種類について、電子書籍がどのように作成され、どのようなフォーマットで、どのようなビジネスモデルのもとに提供されているかを分析しました。萩野氏はこの分析の中で、従来は紙の書籍の製作を担ってきた印刷系企業が、電子書籍の作成・配信を担うコンテンツプロバイダーを立ち上げるか、あるいはコンテンツプロバイダーに資本を提供することによって、電子書籍の流通に大きく関与していることを指摘しました。紙の書籍の多くが電子データを元に印刷・製作されている現在、それらを転用・応用して電子書籍を作成できれば強みになると考えられま

す。萩野氏はまた、このような印刷系企業の新しいビジネス展開とともに、電子書籍販売を担っているベンチャー系企業、IT系企業の系列企業などの事業展開も進展していることも指摘しました。

## 電子書籍の「読み手」と図書館



北克一氏  
大阪市立大学大学院創造都市研究科教授。調査研究では、主に電子書籍の利用を担当。

このように急速に市場が拡大している電子書籍ですが、これらはどのように利用されているのでしょうか？北克一氏（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授）は、個人による利用と、図書館等

の機関による利用について、ビジネスモデルを意識しながら分析しました。個人の利用としては、携帯電話による電子書籍の利用率が高いのは若年層の女性であり、よく利用されているのはマンガであること、機関の利用としては、市販されている電子書籍コレクションへのアクセス権を一括契約する形が一般的であること、契約利用している機関の多くは大学図書館であること、また図書館の館種を問わず、蔵書をデジタル化して提供する試みが進行していることなどを紹介しました。

あわせて北氏は、Google社が「Googleブック

検索」として電子書籍を有償で提供しその売上げを権利者に還元するビジネスモデルを進めていること、Amazon.com社が新しい電子書籍用端末“Kindle2”を発表し、またその直後に、当該端末向けコンテンツをApple社のスマートフォン“iPhone”等で利用できるようにしたことなど、主に米国で急速に進んでいる電子書籍の流通環境の変化についても指摘しました。また北氏は、独自の調査により、国内の図書館が、印刷・刊行されベストセラーとなったケータイ小説（紙の書籍）をほかのベストセラー書籍ほどには所蔵していないことが明らかになったとし、図書館が電子書籍を取り巻く環境や利用者の変化に乗り遅れつつあるのではないかと危機感を示しました。

## 電子書籍を文化遺産として残していくために

ここまで見てきたとおり、現在流通し、利用されている電子書籍の多くは、インターネットを通じて提供されているもので、有形の実体を持っていません。中西秀彦氏（中西印刷株式会社専務取締役）は、このような電子書籍の保存について、出版社への質問紙調査・インタビュー調査、国立国会図書館職員への質問紙調査などから、現状の課題をまとめました。

紙の書籍の場合、現在でも千年以上前に刊行されたものを利用することができます。ところが、



中西秀彦氏  
中西印刷株式会社専務取締役。調査研究では、主に電子書籍の保存を担当。

現在提供されている電子書籍のフォーマット、またそれを利用するための機器が、後の時代でも利用可能である保証はありません。インターネットを通じて提供されている電子書籍の場合、システムやサーバ機器の破損等

の事態だけでなく、提供している事業者の倒産や事業廃止などによっても、破棄されてしまう恐れがあります。さらにケータイ小説などの場合、作者により頻繁に執筆、書換え、削除などが行われていますが、その履歴等が管理されていない状態です。

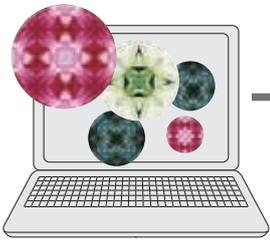
このような電子書籍の長期的な保存について、出版社に対する調査では、データのバックアップのレベルでしか意識されていないことが明らかになりました。一方で、当館職員への質問紙調査では、電子書籍を長期保存していくことの重要性和、それに図書館がかかわっていくことの必要性を意識する意見が多く見られました。欧米ではすでに、図書館が中心となり、出版社等の協力を得ながら電子ジャーナルを長期保存していくプロジェクトがいくつか行われています。中西氏はこのような状況を整理し、日本でも同様に、電子書籍を文化遺産として長期に残しておく必要があり、その中

心となるのは図書館を置いてほかはないと提言しました。あわせて、伊勢神宮が7世紀の持統天皇の時代からずっと、定期的（20年ごと）に本殿を建て替える「式年遷宮」を続けていることになり、電子データを一定期間ごとに最適な形式に変換（マイグレーション）していく「電子式年遷宮」が必要であると指摘しました。

湯浅氏は報告会の結びとして、「この調査が、今後の読者・利用者のために出版社、コンテンツプロバイダー、携帯電話キャリアと図書館が協力しあえる関係を構築していく一つのきっかけになってほしい」との期待を示しました。続いて行われた質疑応答では、「Googleブック検索」がもたらす影響、国内外の電子書籍用読書端末の普及の差、電子書籍利用者層の拡大方法や図書館利用者層との相違、電子書籍を視覚障害者向けに提供するというユニバーサル・サービスの可能性などについての発言があり、参加者の関心の高さ、関心の多様さがうかがえました。

（関西館図書館協力課）

報告会の詳細は、この調査の報告書である『図書館調査研究レポートNo.11 電子書籍の流通・利用・保存に関する調査研究』（<http://current.ndl.go.jp/report/no11/>）および報告会資料（[http://current.ndl.go.jp/FY2008\\_research/](http://current.ndl.go.jp/FY2008_research/)）をご参照ください。  
国立国会図書館ホームページ「図書館員の方へ」－カレントアウェアネス・ポータル



# 本の万華鏡ができるまで

本の万華鏡とは、時事的なテーマ、身近で楽しいテーマなどを、当館の蔵書を使ってご紹介するミニ電子展示です。このコーナーでは、展示作成のエピソードや本の探し方のコツなどをご紹介します。

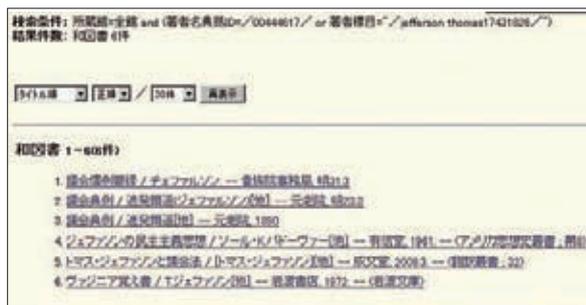
<http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/>

## 第1回 アメリカ大統領の歴史 —あらためて知る 220年—

ミニ電子展示「本の万華鏡」第1回では、アメリカ大統領の歴史をテーマに取り上げます。アメリカ合衆国でオバマ大統領が就任してから、早数か月がたちましたが、新大統領の動向は常に注目されています。

アメリカ大統領はどのようにして選ばれるのか、これまでの大統領は何を考え、どう行動してきたのか、日本とのかかわりはどんなものだったのか…。「本の万華鏡」第1回では、アメリカ大統領について、当館の蔵書をもとに、3章に分けてわかりやすくその歴史を振り返ります。第1章では、4年に1度行われてきた大統領選挙に注目し、第2章では日本に紹介された大統領自身の著作をご紹介します。そして第3章では、日本を訪れた大統領についての報道や、ワシントンやリンカン（リンカーン）が登場する明治期の資料を取り上げます。

第2章の資料を選定する作業では、歴代の大統領の著作をリストアップしました。このように特定の著者の著作を探す場合に便利なのが、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）の著者標目\*の機能です。この著者標目を用いると、図書を著者ごとにまとめて探すことができます。



ジェファルソン  
『議會典例』 遮発爾遜 元老院 1890 (明治23) 年  
(請求記号 YDM31888)  
\*マイクロフィッシュ (白黒) でのご利用となります

ジェファソンがアメリカの連邦議会について解説した *A manual of parliamentary practice* を、明治期に元老院が翻訳したもの

たとえば第3代大統領ジェファソンの場合、「遮発爾遜」、「ジェファルソン」などと表記されることもありますが、著者標目によって「Jefferson, Thomas (1743-1826)」の著作として検索できます。また、著者名「ジェファソン」で検索すると、別人のジェファソンも多数ヒットしますが、そのようなノイズをカットすることができます。

(展示委員会「本の万華鏡」担当)

\*検索の手がかりとなるよう、また同姓同名の場合の識別のため、著者名を統一した形式で表す。当館では和図書を中心に付与。

# 科学技術資料の探し方

## 図書館で学ぶ 第2回

調べものに役立つ情報や資料の活用法など、国立国会図書館ならではの知識を紹介します。

国立国会図書館は、我が国の科学技術資料の提供・保存機関として、科学技術振興政策に基づいて資料を収集しており、科学技術専門資料として、学術会議資料やテクニカルレポート、海外博士論文、規格資料などを所蔵しています。今回は、これらの資料群のほか、科学技術分野のものが多く文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書や国内博士論文の特徴、当館での所蔵確認方法、インターネット上の有用なサイトをご紹介します。

### 文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書 (科研費報告書)

文部科学省科学研究費補助金（科研費）は、学術研究を進展させることを目的とする助成金です。人文・社会・自然科学の全分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を対象として交付される競争的研究資金で、国費による研究助成金の中核的存在です。この補助金を得て行われた研究については、その成果をまとめ報告書を作成することになっています。



報告書には、研究実績報告書、研究成果報告書、研究成果報告書概要の3種類があります。国立国会図書館では、このうち研究成果報告書を所蔵しています。一般に「科研費報告書」といわれるときには、研究成果報告書を指していることがほとんどです。科研費には、助成金額の規模や研究期間に応じてさまざまな研究種目がありますが、研究成果報告書の提出が求められるのは一部の研究種目で、そのうち研究期間が複数年度にわたるもののみです。

### 【探し方】

(書誌情報例)

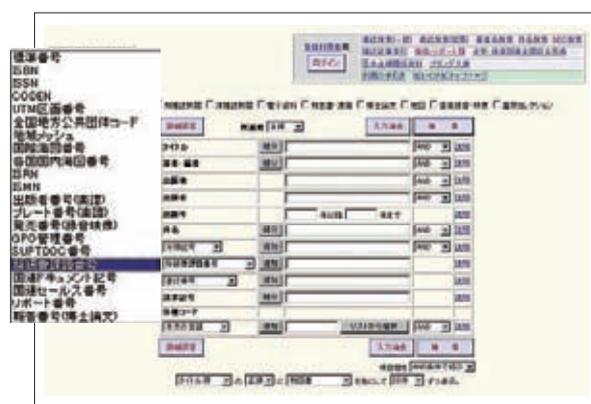
井上紘一 自律型エアロボットの開発とその安全・防災への応用に関する研究 平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))研究成果報告書(2003)

科研費報告書の書誌情報には、研究代表者、研究課題名が含まれます。一見すると図書館の書誌情報と同じですが、多くの場合は「科学研究費補助金」「研究成果報告書」の語句や研究種目名が記載されています。

また、科研費報告書に収録された一論文が引用される場合があります。通常は研究課題名も併記されますが、併記されていない場合、その課題名は研究課題名なのか、報告書中の一論文なのかを確認する必要があります。後述するKAKENなどで調査します。

科研費報告書の所蔵を確認するには、NDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)の〔一般資料の検索/申込み〕の画面で、研究課題名や研究代表者名をキーワードに検索します。この

例では、「自律型エアロロボットの開発とその安全・防災への応用に関する研究」が研究課題名、「井上 紘一」が研究代表者名です。また、科研費の採択課題には、研究の進捗などを管理するための課題番号が与えられています。〔一般資料の検索（拡張）／申込み〕の画面では、この「科研費課題番号」からも検索できます。



NDL-OPAC (<http://opac.ndl.go.jp/>)

これまで研究成果報告書は冊子形態で提出されてきましたが、2008年度報告分からは電子媒体で文部科学省または日本学術振興会に提出されます（一部例外あり）。電子媒体の報告書は、インターネット上で国立情報学研究所が提供するKAKEN（科学研究費補助金データベース）で全文を閲覧できるようになります。



KAKEN (<http://kaken.nii.ac.jp/>)

KAKENでは、2008年度以降の報告書を閲覧するほかに、科研費の採択課題や研究実績報告書、研究成果報告書概要の内容について検索をすることができます。研究課題名、研究代表者や研究分担者、発表論文などを確認するツールとして有効です。

## 博士論文

博士論文とは、博士の学位（博士号）を取得するために、大学などに提出される学位請求論文で、研究者にとって重要な研究業績の一つです。

国立国会図書館では、1923（大正12）年9月以降の国内の博士論文を所蔵しており、現在は、全国の大学からの寄贈により博士論文を収集しています。科学技術分野だけでなく、全分野の博士論文が対象です。国内の大学で学位を取得した外国籍の方の博士論文も所蔵しています。博士論文は、大学に提出する以外は、少数を関係者に寄贈する程度で、広く流通するものではないため、所蔵機関は当館のほか、学位授与大学などに限られています。



湯川秀樹（上）  
野依良治（下）



## 【探し方】

(書誌情報例)

梅本通孝 (2006) 災害初期の事前避難における住民の  
意思決定メカニズムに関する研究 学位論文 筑波大学

博士論文の書誌情報には、通常「学位論文(博士論文)」と明記されます。学位論文と書かれていない場合でも、「学位授与大学名」や「学位授与年」があれば、博士論文であると考えることができます。

国内博士論文の所蔵を確認するには、NDL-OPACの〔一般資料の検索/申込み〕の画面で検索します。入力欄の上部にある[博士論文]のチェックボックスにチェックを入れるのを忘れないようにしましょう。通常は著者名で検索することで、かなり高い確率で特定することができます(同姓同名の方がいる場合は注意が必要です)。

1967年以降に受け入れた博士論文はNDL-OPACで検索することができます。一方、1966年以前に受け入れたものは、今のところ関西館総合閲覧室のカード目録が唯一の検索手段です。関西館資料案内に電話でお問い合わせください(0774-98-1341)。所蔵するすべての博士論文がNDL-OPACで検索できるように、現在データ入力作業を行っています。

近年は、博士論文の電子ファイルを各大学の機関リポジトリで公開するケースも増えてきました。国立情報学研究所が提供するJAIROは、国内の機関リポジトリをまとめて検索することができ、機関リポジトリで公開されている学位論文を限定して検索するのに便利です。例にあげた博士論文は、筑波大学の機関リポジトリで全文が公開されています。

科学技術分野の海外の博士論文に関しては、主に北米の大学のものを所蔵しています。

世界的にも、博士論文をインターネット上で公開

することが一般的になっています。海外の大学の博士論文がインターネット上で公開されているかを確認するために、以下のようなリンク集を使って学位授与大学のリポジトリを探したり、リポジトリを横断検索できるサイトを利用することができます。



JAIRO (<http://jairo.nii.ac.jp/>)

### ○リポジトリのリンク集

・ Registry of Open Access Repositories (ROAR)  
(<http://roar.eprints.org/>)

・ Directory of Open Access Repositories  
(OpenDOAR) (<http://www.opendoar.org/>)

### ○リポジトリ上の学位論文の横断検索

・ Networked Digital Library of Theses and  
Dissertations (NDLTD) (<http://www.ndltd.org/>)

・ OAIster (<http://www.oaister.org/>)

## 学術会議資料(欧文会議録・学協会ペーパー)

会議録などの学術会議資料は、学術コミュニケーションの有力手段である会議・学会に関連する資料群の一つで、速報性が特徴です。

### ○会議録

会議録は、学術的な国際会議や学会で発表された研究発表論文を、会議後にとりまとめて発行した論文集です。欧米諸国の言語(大部分は英語)で書かれ



会議録を、国立国会図書館では「欧文会議録」と呼び、1960年代から科学技術分野全般の欧文会議録を収集しています。近年は、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテク・材料分野を重点的に収集しています。

### 【探し方】

(書誌情報例)

Sekimoto, H., et al., Proceedings of the Tenth International Conference on Nuclear Engineering (ICONE 10), Arlington, VA, April 14-18, 2002

会議録の書誌情報には、多くの場合「Proceedings」「Conference」といった会議録に特徴的な単語が含まれます。会議の略称や開催地、開催期間などが書かれていることもあります。上の例では、「Tenth International Conference on Nuclear Engineering」が会議名、「ICONE 10」が略称、「Arlington, VA」が開催地、「April 14-18, 2002」が開催期間です。

欧文会議録の所蔵を確認するには、一般的にはNDL-OPACの〔一般資料の検索／申込み〕の画面で〔洋図書〕のチェックボックスにチェックを入れ、タイトル欄に会議名を入れて検索します。ただし会議録は、雑誌の特集号や会議録のみを収載する雑誌の1号として刊行される場合もあります。検索前に書誌情報をよく確認しましょう。

### ○学協会ペーパー

学会や国際会議の際に、事前に発表者から集めた会議発表論文を、一論文一冊の小冊子として刊行し、会議で配布することがあります。国立国会図書館では、これらの資料を「学協会ペーパー」と呼んでいます。会議録は発行までに時間がかかることが多いため、会議で配布される学協会ペーパーでは迅速に研究内容を把握することができます。

当館で所蔵するおもな学協会ペーパーは、AIAA（米国航空宇宙協会）、ASME（米国機械学会）、SAE（自動車技術者協会）、SME（製造技術者協会）などです。

### 【探し方】

(書誌情報例)

Strang WZ, Tomaro RF, Grismer MJ. The defining methods of Cobalt60: a parallel, implicit, unstructured Euler/Navier-Stokes flow solver. AIAA Paper 99-0786.

学協会ペーパーには一論文に一つずつペーパー番号が付与されており、書誌情報にもこのペーパー番号が含まれるのが一般的です。ペーパー番号は「学協会名を示す略称」と「年、連番、分野を表す記号」から構成されており、各学協会のサイトで検索することができます。

学協会ペーパーは、NDL-OPACの〔規格・リポート類の検索／申込み〕の画面で検索します。「リポート番号／規格番号」欄に「ペーパー番号」を入力して検索します。この例では「AIAA 99-0786」と入力して検索します（ほとんどの場合、タイトルや著者では検索できません）。



規格レポート類の検索画面。「レポート番号／規格番号」の検索は、入力したスペースや記号は無視されるなど、検索方法が特殊です。詳しくは検索欄右の「説明」をご参照ください。

## テクニカルレポート

テクニカルレポートというと、一般には技術報告書（技報）を思い浮かべますが、国立国会図書館では（主に米国の）政府委託研究の研究報告書をテクニカルレポートと呼んでいます。当館での科学技術専門資料の収集はPBレポートから始まり、戦後の日本の科学技術開発において重要な情報源となりました。米国商務省のNTIS（National Technical Information Service：科学技術情報サービス）がマイクロフィッシュ形態で頒布しているものを中心に収集しており、米国国防省のADレポート、エネルギー省のDOEレポート、航空宇宙局のNASAレポート、その他政府研究の報告であるPBレポートなどを所蔵しています。



## 【探し方】

（書誌情報例）

Bioethanol: Moving into the Marketplace. National Renewable Energy Lab., Golden, CO.  
DE2000-765087

テクニカルレポートの書誌情報には、機関を表す記号と年、連番、分野を表す記号からなる「レポート番号」が含まれます。上の例では「DE2000-765087」がレポート番号で、DEは米国エネルギー省を表します。

テクニカルレポートの所蔵を確認するには、NDL-OPACの「規格・レポート類の検索／申込み」の画面で検索します。「レポート番号」を入力して検索するのが基本です（ほとんどの場合、タイトルや著者では検索できません）。レポート番号がわからないときは、NTISのサイト（<http://www.ntis.gov/>）などでタイトルや著者からレポート番号を調べることができます。サイトからレポートを購入することもできます。

近年のテクニカルレポートは、各発行機関がインターネット上で無償で全文公開している場合がありますので、各機関のウェブサイトや検索エンジンを検索してみるとよいでしょう。

## 規格

規格は、産業・技術などの分野において製品やサービスの仕様などを統一するための「取り決め」です。関係者の合意により制定されます。

規格資料の形態は、規格票（一つの規格のみが収められた小冊子）と規格集（複数の規格が収録された冊子）が中心ですが、CD(DVD)-ROMでのみ発

行されたり、オンライン販売で電子ファイルとして入手する形も増えています。

国立国会図書館では、日本の国家規格である JISをはじめ、国内団体の規格を納本制度にもとづいて収集しています。ISO、IEC といった国際規格や、ASTM、SAE のような国際団体規格、DIN など外国の国家規格は、主に購入により収集しています。このほか、財団法人日本規格協会が発行する BS、UL といった海外規格の邦訳版も一部所蔵しています。



## 【探し方】

(書誌情報例)

ISO/IEC 10021-2:2003, Information technology  
-- Message Handling Systems (MHS) : Overall  
architecture

規格の書誌情報では、規格番号を示すのが基本です。規格番号は、「制定団体の略称」と識別のための「番号(通し番号が多い)」、「規格の制定年(改訂年)」で構成されます。文書の性格や部門を表す記号がつくこともあります。

規格票の所蔵を確認するには、NDL-OPACの「規格・レポート類の検索/申込み」の画面で検索します。「規格番号」を入力して検索するのが基本です。この例では、「ISO/IEC 10021-2:2003」が規格番

号です。タイトル(規格標題)の検索項目もありますが、書誌に規格標題が入力されているデータは一部のため、検索できない場合があります。また当館では、*Annual Book of ASTM Standards*(材料・試験の国際的な規格である ASTM 規格のハンドブック)や *DIN-Taschenbuch*(ドイツ国家規格のハンドブック)などの規格集を所蔵しています。これらは、個別の規格番号からは検索できません。[一般資料の検索/申込み]の画面で洋図書や洋雑誌にチェックを入れて、規格集のタイトルで検索してください。

規格の内容をインターネット上で閲覧できるケースは少ないですが、規格番号をキーワードで検索できる場合があります。JISについては、日本工業標準調査会のウェブサイト(<http://www.jisc.go.jp/>)で規格の全文を閲覧することができます(印刷やダウンロードはできません)。

この記事は昨年12月に図書館員を対象として行った科学技術情報研修を題材にしています。昨年の研修の講義資料は、国立国会図書館ホームページ-図書館員の方へ-図書館員の研修-過去の実施研修-平成20年度研修講義資料([http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/library\\_training2008.html#shiryoku](http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/library_training2008.html#shiryoku))のページでご覧いただけます。

今年度後半には、図書館員の方を対象として遠隔研修「科学技術情報-科研費報告書・博士論文・規格-」を開講する予定です。ご参加をお待ちしています。

今回紹介した資料については、リサーチ・ナビ(<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi> 本誌12~15ページ参照)でも紹介しています。

(関西館文献提供課)

今回は、科学技術情報の調べ方を紹介します。

図書館で学ぶ 第1回(578(2009年5月号)の訂正とお詫び  
\* 20ページ 右  
(誤)「証券先物取引所」→(正)「韓国取引所」

# 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## 天馬

### シルクロードを翔ける夢の馬 特別展

奈良国立博物館編・刊  
〒630-8213 奈良市登大路町50番地  
2008.4 255頁 A4 <請求記号 KB16-J176>

本書は2008年に奈良国立博物館と全国競馬・畜産振興会の主催で行われた特別展「天馬 シルクロードを翔ける夢の馬」の展示図録である。

馬は、遊牧騎馬民族が登場した約3000年前から、火薬が普及して海上交通が飛躍的に発展した約500年前までの前近代のユーラシア大陸において、軍事力と情報伝達的手段として重要な役割を果たしていた。

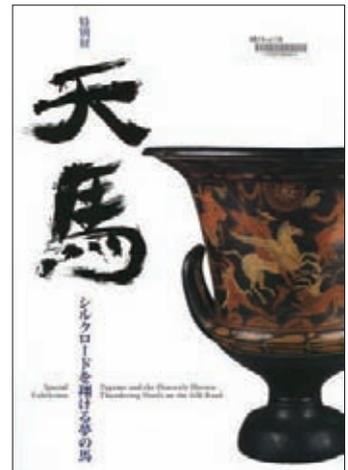
本書によれば、人々は、力強く、速く、そしてどこまでも駆けていく馬に畏敬の念を抱き、様々な思いを託してきた。その思いが形となって表されたのが、「天を翔ける馬」、すなわち「天馬」だという。現時点では、3200年前のオリエントの人々が馬に翼をつけた霊獣を刻んでいたことが最古の例とされている。ここから、「天馬」はユーラシア大陸を翔け巡る。西のかたギリシャ・ローマ世界に向かった「天馬」は「ペガサス」と呼ばれ、神の威光、不死・不滅の象徴とされた。また、ヘレニズム文化の東漸に伴い、「天馬」は東へと飛び立った。ペルシアではゾロアスター教と、インドでは仏教と、中国では神仙思想と結びついた。そして日本では、それらを下敷きにして、密教と結びついていった。東方では「天馬」は一転して、天界と現世を結ぶ霊験や霊力の象徴とされたのであったという。

このように、各地の王権・宗教と結びついた「天馬」は、結果として様々な文物にその姿を刻ませることとなった。こうした文物を一堂に集めて地域ごとに

陳列したのが、この展示である（「天馬」のモチーフを好んだ遊牧騎馬民族の遺したものがほとんど出展されていないのが惜まれる）。総数163点。カラー図版を眺めるだけでも十分迫力があるし、総説や全点の解説だけ

でなく、「中国の有翼馬」「仏教と天馬」などのテーマ単位で掘り下げた各論も興味深い。こういったシルクロード関係の文物の展示は今やそう珍しいものではないが、「馬」というテーマに特化したものは多くないし、その出展品の質・量は、過去の同様の展示と比べても抜きん出ており、その点で本書は興味深い一冊となっている。

さて、「天馬」という言葉は「天を翔けるように地上を疾駆する馬」を表すこともある。古くは漢の武帝が、当代きっての名馬とされた大宛（フェルガナ）の「汗血馬」を「天馬」と呼んだ。また、本書でも紹介されている京都・上賀茂神社の競馬に見られるように日本人も古くから馬に親しんできたが、1976～77年の日本競馬で活躍した名馬トウショウボーイに「天馬」という呼称を与えられたことはご存知の方も多いのではないか。都市や農村などに定住し、車に乗るといった生活を送る現代日本の私たちにとっても、「天馬」は憧れの存在だということなのだろう。



ふくばやし やすひろ  
(福林 靖博)

## 帝室技芸員と一九〇〇年 パリ万国博覧会

宮内庁三の丸尚蔵館編 宮内庁刊  
〒100-0001 千代田区千代田1-1  
2008.7 103頁 A4

<請求記号 K16-J121>

「今日は博覧会を見物いたし候が、大仕掛けにて何がなにやら一向方角さえ判りかね候。」(明治33年10月23日夏目漱石から夏目鏡宛の書簡)

漱石が「大仕掛け」と述べた博覧会が、1900年パリ万国博覧会である。この万博は世紀の変わり目の万博として、19世紀を顧みると同時に新世紀を展望するもので、非常に華やかだったと伝えられている。折しも時代はジャポニズム。明治政府はこの機会に日本美術を出品して国威を伝えようと意気込んでいた。

本書は、平成20年7月19日から12月14日まで、宮内庁三の丸尚蔵館で開催された展覧会「帝室技芸員と一九〇〇年パリ万国博覧会」の図録で、パリ万博に出品された帝室技芸員の作品を中心に、内国勸業博覧会等に出品された作品が掲載されている。

帝室技芸員とは、帝室(皇室)が優れた美術家に与えた終身の栄誉職であり、当時非常に名誉なものであった。万博に出品する際も特別扱いで、一般の作品のとりまとめは農商務省が行っていたが、帝室技芸員の作品は宮内省がとりまとめをしている。明治天皇の御下命を受けて宮内省が制作を依頼していたからだ。出品までの経緯は本書の概説に詳しいが、作品の制作前に図案を提出させて、宮内省調度局長がその内容に指示をしたことや、作品の完成後には宮内省で独自に監査が行われた点など、宮内省の内容へのかかわり方は興味深い。つまりこの図録

に掲載されている作品は、明治政府が日本の伝統と技術を世界に伝えるべく万博に送り込んだ自信作であったのだ。

本書の図版・解説は、万博出品作品とその他内国勸業博覧会等に出品された作

品の二つに大別されている。一つの作品につき2~3ページを使い、図版と作品の解説、海外での評価と作家の経歴が簡潔にまとめられている。圧巻なのは鮮やかなカラー写真である。一つの作品の全体像はもちろんのこと背面や拡大写真もつけられていて、写真ではあるが思わず見とれてしまう。

図版・解説を見ていると、日本画や彫刻だけではなく、彫金や建築計画図も出品されていたことがわかる。技芸員という名の通り、絵画のみではなく各種工芸・建築など幅広いジャンルからの技術者が選ばれていた。今の感覚では建築計画図が絵や彫刻と一緒に並べられるのに、多少違和感があるかもしれない。このようなところに、近代日本において、工芸や美術の枠組みが形成されていく過程をかいま見ることができるのではないだろうか。

これらの作品は、万博という世界的なイベントに対し、作家が技術の粋をこめて制作したものである。漱石は短いパリの滞在中に3回万博を訪れ、展示された日本の作品について、「異彩ヲ放ツ」と述べている。

まつなが  
松永 しのぶ



**平成 21 年度補正予算による大規模デジタル化**

5月29日、平成21年度補正予算（第1号）が成立した。これにより、国立国会図書館は、国内で刊行された図書、雑誌、児童書、児童雑誌、古典籍資料、学位論文、官報等について大規模なデジタル化を行う。経費総額は125億9,800万円で、資料約90万冊分に相当する。従来、当館では、保存の手段としてマイクロ化による複製を中心としてきたが、利用のしやすさなどの観点から、デジタル化による複製を中心とする方向に転換することとしている。

**第 17 回アジア・オセアニア地域国立図書館長会議 (CDNLAO) および第 14 回東南アジア図書館人会議 (CONSAL)**

4月20日～23日、標記会議がベトナムのハノイで開催された。当館からは齋藤友紀子国際子ども図書館長が出席した。

ベトナム国立図書館で20日に開催された CDNLAO では、前回会議において協同して取り組むべき課題とした項目について幹事国等が報告を行った。オープンソース・ソフトウェアの利用については、オーストラリアがこれまでの経験と今後の取組みについて報告し、資料の電子的保存については、シンガポールが2009年末に開始予定のデジタル保存サービス事業への参加を呼びかけた。ウェブ・アーカイビングについては、日本が法制化等の取組みを報告するとともに、各国に対し現状把握と問題点抽出のためのアンケート調査への協力を求めた。今年で30周年を迎えた CDNLAO は、これまで特に規約を設けず、情報交換を主たる目的としてゆるやかに運営されてきたが、より実質的な会議運営に向けて徐々に形を整えることとなり、オーストラリアが規約案を作成することとなった。

3年に一度の大会である CONSAL は、21日・22日に国内外から約800名の参加者を集めてメリアホテルで開催された。「東南アジア諸国におけるダイナミックな図書館・情報サービスに向けて」を総合テーマに、本会議の後、三つの分科会に分かれて報告がなされ活発な質疑と情報交換が行われた。

## お知らせ

### ■ 帝国議会議録が 明治44年から検索できるよう になりました



「帝国議会議録検索システム」トップページ



「陪審法案委員会議録」

帝国議会議録をインターネット上で検索・閲覧できる「帝国議会議録検索システム」に、5月7日、新たに第28回～第51回（明治44年12月～大正15年3月）の議録約7万6,000ページ分のデータを追加しました。

目次・索引、発言者名からの検索が可能です。本文は画像でご覧いただけます。

今回の追加により、第28回から戦後の第92回まで、約25万ページの帝国議会議録が検索できるようになりました。戦後（昭和20年9月～22年3月）の議録は、質疑部分の検索も可能です。今後は、本年度末をめどに、第1回帝国議会議録まで遡及してデータベース化する予定です。

大正年間には、護憲運動、第一次世界大戦、シベリア出兵、米騒動、ワシントン会議、関東大震災などのできごとがありました。政治の面ではいわゆる大正デモクラシーの時代にあたり、政党政治の定着と憲政の常道の確立に向けての動きや普選運動が盛り上がる一方で、治安法制等も整備されていきました。また、都市化・産業化の進展と社会不安の増大が同時に進行していく中で、国民の議会に対する期待も高まり、議員提出議案の件数や審議時間も増加しています。

この間に審議・制定されたおもな法律には、衆議院議員選挙法改正（いわゆる普通選挙法）、治安維持法、陪審法、震災被害地ノ地租免除等二関スル法律、震災善後公債法などがあります。また、議会の演説では、大正2年2月（第30回）の尾崎行雄の桂内閣弾劾演説や、大正6年6月（第39回）の齋藤隆夫が内閣不信任案等議会の決議の効力を寺内首相に問いただした演説などが有名です。

○ URL <http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

— 「国会サービス関連情報」 — 「帝国議会議録」

○お問い合わせ先

国立国会図書館 調査及び立法考査局電子情報サービス課

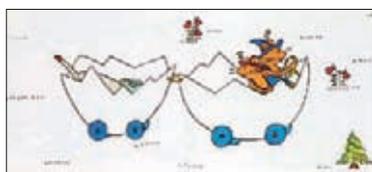
電話 03 (3506) 5167 (直通)

## お知らせ

### ■ 国際子ども図書館展示会 出発進行!「のりもの」本めぐりへ



『ふたごの でんしゃ』  
渡辺茂男 作 堀内誠一 絵 あかね書房  
1969



『ぐりとぐら』  
なかがわりえこ、おおむらゆりこ  
福音館書店 1967 26-27 ページ



『ロッタちゃんとじてんしゃ』  
アストリッド・リンドグレン さく  
イロン・ヴィークランド え  
やまむろしずか やく 偕成社 1976

「のりもの」は、子どもたちが大好きなテーマの一つです。

この展示会では、「鉄道」「自動車」「船」「飛行機」の4種の乗り物を大きな柱とし、国内外の多くの作品を通して、それぞれの発達の歩みや個性豊かな表情を紹介します。中には、ちょっと風変わりな乗り物たちも登場します。

特別コーナーでは、自転車からスペースシャトル、魔法の乗り物まで登場します。明治時代の乗り物絵本や、飛び出すしかけ絵本なども展示しています。

さまざまな「のりもの」の本めぐりをどうぞお楽しみください。

開催期間 7月18日(土)～平成22年2月7日(日)

休館日 月曜日、国民の祝日・休日、年末年始、  
資料整理休館日(第3水曜日)

開催時間 9:30～17:00

会場 国際子ども図書館3階 本のミュージアム

入場 無料

#### ○ 関連行事のご案内

展示会初日の7月18日(土)、この展示会の監修者である佐藤美知男氏(財団法人交通文化振興財団 専任学芸員)による講演会を開催します。このほか、期間中にはギャラリートークなどを実施する予定です。

各催し物のご案内や参加申込みなどについては、国際子ども図書館ホームページ(<http://www.kodomo.go.jp/>)等でお知らせいたします。

#### ○ お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課

電話 03(3827)2053 (代表)



## お知らせ

---

### ■ 国立国会図書館件名標目表 2008年度版を公開

6月12日に「国立国会図書館件名標目表2008年度版」をホームページで公開しました。件名標目とは、テーマから資料を検索するために用いられている統制語です。国立国会図書館では、件名標目を国立国会図書館件名標目表(NDLSH)として維持しており、NDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)の検索等に利用されています。

このたび公開したNDLSH2008年度版は、NDLSH2007年度版の公開以降に行った件名標目の新設・訂正・削除を反映したもので、2009年3月末日現在のデータを収録しています。

2006年9月から提供しているNDLSHのテキストデータを、非営利目的の利用に限り、自由にホームページからダウンロードできるようになりました。ご利用を希望される方は、以下のページをご覧ください。

○ URL [http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndl\\_ndlsh.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndl_ndlsh.html)

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

— 「図書館員の方へ」 — 「書誌データの作成および提供」

— 「書誌データ作成ツール：分類・件名(NDLC、NDLSHなど)」

— 「国立国会図書館件名標目表2008年度版」

○ お問い合わせ先

国立国会図書館 収集書誌部収集・書誌調整課書誌調整係

電話 03(3581)2331(代表)

電子メール [syosi1@ndl.go.jp](mailto:syosi1@ndl.go.jp)



## お知らせ

### ■ 平成 21 年度 図書館員のための 利用ガイダンス

国立国会図書館の図書館へのサービスをより効率よく利用していただくために、その基本的な利用方法をご案内する「図書館員のための利用ガイダンス」を開催します。

- 日 時 8月21日(金) 10:00～17:00
- 会 場 国立国会図書館関西館 第2研修室
- 対 象 国内の公共図書館・大学図書館および専門図書館の職員で、新たに当館の図書館間貸出しサービス、複写サービス、レファレンス・サービスを利用する図書館の協力担当者、または図書館協力業務経験3年未満の協力担当者、のいずれかに該当する方。
- 定 員 20名。1機関1名。応募者多数の場合は調整します。
- 内 容

10:10～11:35	セミナー(1)「NDL-OPACの利用方法」
12:35～14:00	セミナー(2)「貸出し・複写サービスの利用方法」
14:05～14:55	館内見学(閲覧室・書庫ほか)
15:05～16:30	セミナー(3)「レファレンス・サービスの利用方法」
16:35～17:00	質疑応答

#### ○お申込方法

当館ホームページ掲載の参加申込書にご記入の上、電子メール、FAX  
または郵送で7月31日(金)必着でお申し込みください。

#### ○お申込み・お問い合わせ先

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
国立国会図書館関西館 図書館協力課研修交流係  
電話 0774(98)1445(直通) FAX 0774(94)9117  
電子メール training@ndl.go.jp

※研修内容の詳細は、当館ホームページをご覧ください。

国立国会図書館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp/>) - 「図書館員の方へ」  
- 「図書館員の研修」

## お知らせ

### ■ 国際子ども図書館 夏休み催物「科学あそび」 じしゃくのふしぎ



昨年の様子（「光のふしぎ」をテーマに万華鏡をつくる）

国際子ども図書館では、毎年夏休み期間にあわせて、子ども向け催物を行っています。本年も、科学の本に対する子どもたちの興味を引き出す「科学あそび」を開催します。

対象年齢別に2コースを設けます。磁石を用いた実験を楽しみます。

- 日 時 7月25日（土）午後1時30分～、3時～  
7月26日（日）午後1時30分～、3時～  
各回とも2コース実施。4回ともすべて同内容です。  
所要時間はいずれも1時間程度です。
  - 会 場 国際子ども図書館3階ホールおよびワークルーム
  - 対 象 さかなつりコース（満4歳以上とその保護者1名）  
スライムコース（小学校1年生以上）  
※スライムコースには大人の方は入れません。
  - 人 数 各回とも  
さかなつりコース 8組程度  
スライムコース 16名程度
  - 参加費 無 料
  - お申込方法 事前申込制です。直接来館、往復はがき、電子メールでお申し込みください。先着順で、定員になり次第締め切ります。  
申込みは7月1日からです。詳細は国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）をご覧ください。
  - お問い合わせ先  
国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課  
〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話 03（3827）2053（代表）
- ※「科学あそび」開催日は、「子どものためのおはなし会」をお休みします。

## お知らせ

### ■ 第16回 東京国際ブックフェア に参加します

日本最大の本の展示会である東京国際ブックフェアに、国立国会図書館は今年初めて出展します。ブースでは、納本制度、資料保存、国際子ども図書館を中心に国立国会図書館の活動を紹介します。みなさまのご来場をお待ちしております。

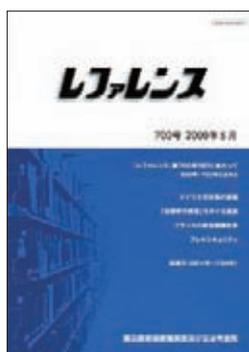
#### 第16回東京国際ブックフェア

期 間 7月9日(木)～12日(日) 10:00～18:00

会 場 東京ビッグサイト(東京都江東区有明3-21-1)

主 催 東京国際ブックフェア実行委員会、リードエグジジションジャパン株式会社

### ■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 700号 A4 154頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・『レファレンス』第700号刊行にあたって
- ・600号～700号のあゆみ
- ・ドイツ大学改革の課題
- ・「全国学力調査」をめぐる議論
- ・フランスの統治機構改革
- ・フレキシキュリティ
- ・総索引(601号～700号)

入手のお問い合わせ

(社) 日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

## CONTENTS

- 02 Book of the month - from NDL collections  
*Designs on the dances of Vaslav Nijinsky*  
- collection of illustrations of the Ballets Russes dance
- 04 Talks with the Librarian of NDL (9)  
Dr. Claudia Lux, President, International Federation of Library Associations and Institutions (IFLA)  
To an assertive library
- 10 Libraries in the knowledge society - visions for the future
- 12 RESEARCH NAVI - you can find clues to help your research
- 17 Stacks of the NDL (1) Tokyo Main Library
- 20 Distribution, use and preservation of e-books in Japan  
- from a research seminar on libraries and library and information science
- 25 The making of the Kaleidoscope of Books  
(1) History of the President of the United States - 220 years to learn anew
- 26 Learning in NDL (2) How to search materials on science and technology
- 16 <Tidbits of information on NDL>  
Elements of the RESEARCH NAVI
- 32 <Books not commercially available>  
○ *Tenma: shiruku rodo o kakeru yume no uma: tokubetsuten*  
○ *Teishitsu gigeiin to 1900-nen pari bankoku hakurankai*
- 34 <NDL NEWS>  
○ Large-scale digitization with a supplementary budget for FY2009  
○ Report of the 17<sup>th</sup> Conference of Directors of National Libraries in Asia and Oceania (CDNLAO) and the 14<sup>th</sup> Congress of Southeast Asian Librarians (CONSAL)
- 35 <Announcements>  
○ Minutes from 1911 now available in the Database System for the Minutes of the Imperial Diet  
○ Exhibition at the International Library of Children's Literature: "All Aboard! for a Trip around Books on Vehicles"  
○ 2008 version of the National Diet Library List of Subject Headings now available  
○ Library guidance for librarians in FY 2009  
○ Summer event of the International Library of Children's Literature: Fun with science "Wonder of magnets"  
○ NDL to take part in the 16<sup>th</sup> Tokyo International Book Fair  
○ Book notice - publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 21 年 6 月号 (No.579)

平成 21 年 6 月 20 日発行 定価 525 円  
(本体 500 円)

発行所 国立国会図書館  
編集者 網野光明  
責任者  
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp

発売 社団法人日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03 (3523) 0812 (販売)  
FAX 03 (3523) 0842  
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社エポ

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き取りして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) - 「刊行物」 - 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



『琉球草木写生』から「梯枯」  
[牧野貞幹画] [吉田良林写]  
1冊 26.8 × 19.6cm <請求記号 寄別 3-6-3-6 >

## 国立国会図書館月報

平成21年6月20日発行 (毎月1回20日発行)  
(6月号通巻579号)

発売：社団法人日本図書館協会 定価525円(本体500円)